

全国高校選抜大会

25日は6競技があった。兵庫勢はテニス男子団体の相生学院が決勝で柳川(福岡)に3-2で勝ち、2年ぶり2度目の頂点に立った。女子団体の相生学院は決勝で富士見丘(東京)に敗れた。重量挙げの男子69kg級は生頼(おつらい)永人(明石北)がスナッチ、ジャークともに大会記録を更新し、トータル260kgの大会新記録で昨年の62kg級に続く大会2連覇を



男子は2年ぶりの優勝、女子は初出場にして準優勝した、相生学院の選手ら(相生学院提供)

達成。同85kg級は小野川竜都(洲本実)がトータル257kgで制した。同94kg級では堀北知秀(舞子)が3位に入った。ソフトボール男子の滝川は4強に進んだ。

第5日、博多の森テニス競技場

【男子】団体決勝
相生学院 3(単3-0) 2柳川(福岡)
複0-2

○竹元 76-63 河野
○平飯川島 11-66 遠藤
○田沼 64-62 山西
○工藤藤井 63-61 古ヘルナ
○加藤 66-34 町田
相生学院は2年ぶり2度目の優勝

○細沼 66-10 観音堂
○杉川本 66-21 村上
○助川 16-64 藤本
○森崎 16-64 森
○江見 66-22 森
富士見丘は3年ぶり7度目の優勝

相生学院男子V奪還 柳川下し 2年ぶり

敗戦糧に宿敵に雪辱

テニス団体男子の相生学院は、雪辱を期して決勝に臨んだ。前年の決勝で完敗した柳川が相手

だ。竹元、加藤、田沼

を忘れずに練習してきた」という選手たちが勝利をつかみ、激戦を制した。

昨年は敵地の大応援団

勝負強さ発揮 初出場準優勝

女子の相生学院

テニス女子団体の相生学院は、初出場で準優勝。これまで兵庫県大会の栄冠も手にしていない創部2年目の新鋭が、全国の舞台で躍進した。

園田や夙川など、県内強豪の壁にはね返されながら培った勝負強さを発

にのまれたが、もう免疫はできていた。引退した3年生も応援に駆けつけ、先に試合を終えた女子部員も加わって後押し。勝負の懸かった第3シングルの加藤も「それほど緊張しなかった」と実力を出し切った。

1年前の敗戦が糧になった。走り込みの量を自主的に増やし、「練習の」集中力も増した」と荒井監督は目を細める。初優勝した一昨年は夏の全国高校総体の栄冠を逃し、昨年は逆に春に敗れて夏を制した。選手たちが見据えるのは、初の春夏連覇。竹元主将は「夏は厳しい戦いになる」と気を引き締めていた。

押した。昨秋の県新人大会で惜敗の責任を背負い込んだ橋、栗本組は、負けなしの活躍。近畿王者の京都外大西との準々決勝に続き、準決勝も3-2で競り勝った。

「技術以上にメンタル面で成長してきた。決勝で負けた悔しさを、これから盛り上げて練習できる」と森主将。手心え十分の初舞台になった。

相生学院 男子団体V

女子は
富士見丘

テニス・全国選抜高校大会第5日(25日・福岡博多の森テニス競技場ほか)読売新聞社など主催)――団体戦の決勝が行われ、昨年と同じ顔合わせとなった男子は、相生学院(兵庫)が昨年の覇者で大会最多17度の優勝を誇る柳川(福岡)に3-2で競り勝ち、2年ぶり2度目の優勝を果たした。女子は富士見丘(東京)が初出場の相生学院を3-1で下し、3年ぶり7度目の栄冠に輝いた。個人戦はベスト4が出そろい、26日に準決勝と決勝が行われる。

【男子】▽団体決勝(3ポイント打ち切り)
相生学院 3 (単3-0、複0-2) 柳川(兵庫)

○竹元 7 6 3 河野
飯島 1 1 6 平田
平川 6 6 6 遠藤
田沼 6 4 6 山西
藤井 6 3 6 古川
工藤 6 3 6 ヘルナンデス
加藤 6 3 4 町田

▽個人3回戦勝者 鈴木悠暉(愛知・名経大市邨)、石井行(東京・東海大菅生)▽同4回戦勝者 三好健太(埼玉・秀明英光)、永田和輝(神奈川・法政二)、林大貴(大阪・大産大付)、石井▽同準々決勝勝者 三好、林

【女子】▽団体決勝(3ポイント打ち切り)
富士見丘 3 (単2-1、複1-0) 相生学院(東京)

○細沼 6 6 1 観音堂
杉本 6 6 2 村上
助川 6 6 4 藤本
森崎 1 6 1 藤本
江見 6 6 2 森

▽個人3回戦勝者 村瀬早香(京都・京都外大西)、山口真琴(長崎・九州文化学園)▽同4回戦勝者 上唯希(兵庫・園田学園)、前田夢佳(山口・野田学園)、並木友花(千葉・東京学館船橋)、山口▽同準々決勝勝者 前田、山口